古今集書鏡

巻十四　哀歌　四　巻丁
巻十五　哀歌　五　十八丁
巻十六　哀傷歌　廿七丁

古今和歌集巻第十四遠鏡

恋哥四

題しらず　　　　よみ人しらず

みちのくのあさか乃沼の花がつみかつ見る人に恋やわたらむ

○上カツ〲ニチヨツトカウ逢タバカリノ人ヲ　コレカライツマデモ恋シウ思ウテ月日ヲタテルヿデアラウカイ

逢みずば（清）恋しきこともなからまし音にぞ人をきくべかりける

○一ト度モ逢タヿガナクバ　此ヤウニ恋シイヿモアルマイ　アフタヿガナクバ　タヾヨソノヿニ聞テ居ルバカリデサアラウニト云ハル丶

つらゆき

いそのかみふるの中道中〻にみずバ恋しとおもはましやハ

○一二 ナマナカニ一度モ逢タヿガナクバ此ヤウニ恋シイハ思ハウカイ此ヤウニハ思フマイニ

藤原ノ忠ゆき

君といへば見まれ見ずまれふじのねのめづらしげなくもゆる我恋

○富士ノ山ノモエルノハジヤウヂウノヿデメヅラシイヿモナイガ ワシモオマヘノヿトサヘイヘバ逢テモアハイデモ イウデモフジノ山ノヤウニ恋ノ思ヒガモエマス

伊勢

夢にだに見ゆとハ見えじ朝な〳〵我が面影にはづる身なれば

○ワシトモウ思フ人ノ夢ニモ見エルトハ見ラレマイヅ 朝〻鏡ヲ見ルニモ キウウヤツレタオモカゲデ ハヅカシイ身ヂヤニヨウテサ

よみ人しらず

いしまゆく水のしら波立かへりかくこそは見めあかずもあるかな

○一二 ドウゾ又ヒヅカヘシテ来テ此通リニサアハウワイ サテモ〳〵 マアノコリオホイヿカナ

いせのあまの朝な夕なにかづくてふみるめに人をあくよしもがな

○上 ドウゾ〳〵思フ人ニ存分ニハラ一ッハイ逢ハレルヤウニシタイヿカナ

朝な夕なハ朝合の菜夕合の菜也魚をもなといへバ菜と同じ心此歌なぐの朝な夕なと云朝夕の心にハむかしとぞ。

とものり

春霞たなびく山のさくら花見れどもあかぬ君にもあるかな

○夜ノタナビイテアル山ノ桜花ヲ見ルヤウデ見テモ〳〵色デモ〳〵
サテモ〳〵アカヌ君デヤ〳〵カナ

ぬうやど

ふるさとのなきねぬ〳〵思ひぬるこゑ〳〵やあ〳〵かるべき

○心トゝモノハ ムリナ〳〵ヲ思フ物デヤトサ思ハレル カウシテ色テ居ナガラ
モヤワハリ色シイワイ 色テ居ナガラ色シカラウハズカイ 色テ居
テハ色シカラウハズハナイニ

れいの月こつよ

かゝるとてし後をばふ〳〵で夜来ばふ〳〵も〳〵のおりかゆ〳〵かるみ

○夜シゲル来モ 来ハ絶ラズ枯レルモノデヤガ ワシガ思フ人モ今コソアレ
後ニハカレテ来ノイテシマウデアラウニ サウ云フヲバガテン〳〵セズニ恨モ〳〵

夜来ノヤウニ涼ウ思ハレルコトカナ

よみ人しらず

恋ゆえ川ふちハ淵ふ形〳〵せなりとも思ひそめてむ人ハ恋ゆえれば

○アスカ川ハ岡淵ガヨウカハルト云フデ 世ノ人心モソナ物デヤト云フデヤガタト
ヒトヤウナ世中デヤトテモ ワシハ一タビ思ヒソメテアラウ人ヲバイツマデモ忘レハスマイ

宮内卿

思ふてよ思ふてよ思ふてよ思ふてよ思ふてよ思ふてよ思ふてよ思ふてよ思ふてよ思ふてよ

○フウタイ 木デモ来デモ 秋ハ色ガカハルカラ秋ヲコシテモ 色ノカハラ
ヌ物ハ ワシガ知ヘヲ思フト云ウ河バカリデカヤナアラウ 河ハカハルト云テモ
ウワシガ河バカリハカハリハセヌゾエ

みやつこ

[illegible]

○今夜モ 苫ヲトイテ フトンノ上ヘキルモノヽ片一方ヲ敷テ 赤ヲ待テ
居ルデカナアラウ 宇治ノ橋姫ガサ 寄ヲ待ツ姫の流いぐ

又きうぐ[illegible]

君やこむ 函やゆうむのいさよひふ 吉水の板うもさび神よりて

○君ガクルデアラウカワシガ行ウカト シバラク思合セテ居ノデ 戸モサズニ子タワイ

そをんをゝ

今ゝむゝ[illegible]

○オツヽケソヘ ホラウト云テ オコシタバカリニ 九月ノ末ノ夜ノ長イニ サテマツ

ホドニマツホドニ オソイ夜ノ月ガハヤモウ出タワイ 約束モセナンダ有明ノ月
廿待ダシタメニ ソレニサ待ツ人ハ扨モ〳〵ヌケカナ コレハマアドウシタヽーゾ

よみ人しらず

月夜よし夜とも人ふけぬやらぬこそあらぬ[illegible]

○今夜ハキツウ月ガヨウゴザル 月カヨウゴザルト 人ノ来ヘシラセテヤツタラソレデハ
チトゴザルト云テヤルモ同シヤウナモノヂヤ ドレヤシラセテヤラウ オレモアヤリ
ヨイ月ヂヤニヨツテ モシワセモセウカト 五 ヽタヌデモナイニ

月夜よし〳〵月夜よし〳〵月夜〳〵と[illegible]

きくるゆゑ 東屋ばかりやのこゝろ 同じ格にて 東屋の東屋の
とかゝるまうこそふこそよといふこそ[illegible]

[illegible]

○君ガコズバ イツマデモ閨ヘモハイルマイ　カウシテ外ニ立テ井テ髪ヘモ
ガオクト云テモ　イトヒハセヌ　ヤツハリコヽデ待テ居ヤウ

[illegible]

○宮城野ノ本アラノ小萩ノ家ガ方サニ風ノフイテクルノヲ待ッヤウニサ
ワシハ君ヲマツワイノ　本ハ[illegible]ハ[illegible]ぐちれさぎらしんあ[illegible]
せ[illegible]らしさるあふなびきやとて[illegible]萩
のごとふ茂小はるふごの新乃小[illegible]本萩ハハ[illegible]で又小をつを
ていふ何のこゝをてしひさををつふもはしば

あるゑ[illegible]今もそなてしらふごつのかきわふ咲るやまとをでしこ
○アヽ、哀シイ　ドウゾ今モ逢タイモノヂヤ　山中ノ家ノ垣ニヨウ咲テ
アルアノヤマトナデシコノヤウナカアイラシイソノコニサ
はのおもあふた思ハゞ心しるのとふ逢ちんしたとふのこして
○一　仮ヲモホカノタハ思ヒセヌ　タヾ逢タイくトソバッカリヲサ　三　とハは ジャウ
ヂウワシヤ思フテ居ルワイ　とそんふハあひつんむへうれるふハあゝどハふ
思ふとそなた。上の思ハゞとい[illegible]を下へ[illegible]せて思ふとつとをもつせう。
[illegible]
[illegible]
○上　ドウゾ　アヒナシニ又アウヤウニシタイ　チヤ

ぬりやぶ

○忘シイナド、云名ハ タレガツケタイギヤラ ソシテマハリドホイ名ヲイハウヨリハナニカナシニ 死ヌルトサ スグニ云タガヨイワイ キツウ忘シウ思フトキニハ実ニ死ヌルヤウナワサテ

みくしやの大門のゞ乃友ゑ乃形ふ思ひ出がらひめやそ

○上 一ドホリニ思フコトナラワ分サヤウニコヒ多ハウカイ 一ト思ノコトデハナイワイノかくこひ事物くハ多も思ひふさむのうらぞ悲さしかりけふ

○サイシヨカラウ 後ニハ此ヤウニ忘シカラウ物ヂヤトハ ワシモ思フタコトヂヤ

サイシヨノワシガ忘ノウラナヒガヨウ合タワイナ

天の原物くとぐつくしの形る形も思ふなりをぐさくものゑは

○神ナリト云物ハヨニオソロシイ 仏ニデモタマラヌケシカラヌイキホヒナ物ヂヤケレド ソレデモ人ノ思ヒアウタ中ヲバトホノケルモノカイ ソシテ非ナリサヘトホノケハセヌコトナレバ タトヒ仏ヂガアツタトテモノクコデハナイワシヤ

梓弓ひきみゝの法ぐら求つひふこゞ思ふ人よあくこのもぎくむ

○一二 未デハドウデ ミガヤウニ思フ人ニ名ガ立テイロ〳〵トウワサガシゲウナルデアラウ

けらくこハ行る人あそはみゝぐのあふみぐ絲

へくり絲ひりるこゝ物むすん

あ[illegible]のあびきに[illegible]

○タトヒ世ヲノウワサハドノヤウニシテウゴザリマセウトモ　一二　イツマデ
モワタシヲ絶ウトハ思ヒテトサリマスナ
[illegible]

異人乃志[illegible]

○人ノウワサヲハバカツテ　君ハトホノイテイクガ　一左所デノウワサハタト
ヒ夜ノセノ音ホドシゲク厄　オレガ[illegible]ズニ居ヤウカ　コレカラトテモアハズ
ニハオクマイ　[illegible]

左京敏[illegible]

ひ[illegible]

デカケニクイユエシバシ又合セ居ナレ　アヒ[illegible]

ふ[illegible]

左京業平[illegible]

かど[illegible]

○ワタシガコヲ　一シンセツニ思ヒテトサルヤラ　サウモナイヤラ　ソコノホドハドウモ
キミ　タヾシガタサニ　コヨヒノ雨デソレヲ考ヘテアヒキ　ソレデワシガ身ノ仕合セ
不仕合セモシレルヂヤガ　ソノ為ハサムヤウニ　三　思ヒ[illegible]大ブリニナリマス
コレデワシガ不仕合セモシレタヂヤワイナ　四　為デワシガ身ノ仕合ヲ不仕合ヲ
知ルトヤスワケハ　一アタヾ今ノ世ノ為ノ為リナレバ　四　為ガ止ンダナラ世ハ
ガアラウシヤッパリフツタラ世ハアルマイヂヤ　スレヤ　四　為ハワシガ身ノ仕合

不仕合ノシレル為ヂヤワサテ　うどくふくしの荷ゐ結みる
あくしびとうとハ俗云ふ徐切ると云ふわるとまづ教くとハ物
の多をりふくさてたゆに教ハよむともつきじとうどく
高の敷ありきしびつもふとうと又ひの志ぐさとい多き
志ぐきハ高る宮の徐く切るとこうこれてかどくふをもさらべ
その和よも世間をもあるたろども号ふとと考へ合とて知べし
ゆる女の形り印れ教たととうさぐめびなりきさ
ちとふひてよみてきしくる　まみ人ーらもで
大ぬさ教むくてあ母さふ形りぬ志バ思へどえとて教ア げとれも
○後ノ的ニ大麻ヲアマタ人ガ手ニ引ヤウニ　オヽハ近イコロハ方〳〵カラヒツハル

不ガ多ウナツタナレバ　ヒヒハスルケレモ　ワレハドウモオマヘヲ教ミハサ　エイタサヌワイナ
かへ——　なるとの印るの教たに
おかぬさとクふてそたてれ流れてもつひよる形ハあるとてみ物を
○サアワレハソノヤウニ引ベガタイ大ヌサギヤト　名ニコソタテラレタレ　ミ大麻
ハ川ヘ流レテハユクケレド　ドコゾデハ流レテヨルボノ形ハアルト云ノニ　アンマリ
其ヤウニ大ヌサギヤ〳〵ト云テトサルナ　ワレギヤトテ末デハドウデヨル
所ガナウテハサ　ソノヨルボハオヽヘヨリ外ニアロカイノ
新　ちゝ人ちゝび　よゝ人ちゝび
次テの詠ハ志ぬやく煙見ぬ志ぬ方たなる川よりあと
○スヽノ浦ノアヽノ塩ヲヤク煙ガ風ノツヨサニワキノ方ヘナヒイテイクヤウニ

ワレガ思フ人モ　思ヒモヨラヌ人ノ方ヘナビイテイタワイノ

おかづくるふ木ばうくふりぬまばたえぬんのうれしぶもし

○オヽヘハテウド　カヅラノアノ木ヘモ木ヘモハヒカルヤウニ　アチコチト

おかこヒナサルあガ方ヽニデケタレバ　ワレガ方ラタエハナサライデモ　ソノ

タエヌ心ガナンノウレシイコトモナイ

あづちとてうがもとてうあるたであるとふ和らるこゑする

○夜中ニアレ郭スガツイコヽデサ　ウ声ガスル　イツモトヽル里ハ　ドコノ里カシラヌガ其里ヲバ今夜ハトヽルノヲ一夜嬶ニテ　メヅラシイコチノ座テ寐タトミエル

アソコデ子テ井テ　ウ声ギヤ　これいくど新そのうあるとこふ入るる

そ。濃るるべし。哀のたくとしてそハ和らるあするといへるあり。

ふるはしうるはいとひとく愛敬

乃絵よハ哀れよるとし。古恋ふ和も新そのうあるとを。

ればうつくしくそ食ふしふしてで人をちくのくどよれ月来れる

○イヤモウ人トシモハロバッカリナ物ギヤ　三ウツリヤスイ心ハロトハキツイチガヒデサ

いりるとハきよりせバいるべうる人のうは物ふうれしかくし

○誰デモ口デハ嬉シイコトヲ云テクレルケレド　ハをウソデ子カラ和ミニハナラヌカ　ウソ云

コトノセイ世中デアラウナラ　人ノ云テクレルコトガドレホドウレシイコトデアラウゾ

和ちりくとふ和の〳〵今きくふ和ぐきとをうこれをくのきむ

○ウソヂヤガトハ思ヒナガラモ　コヽデ和ミニ思フテ居ル人ノ云コトナレヤ　ワレヤヤウ

ハリフヨ和ミニ思フテ居ルワイノ　タトヒ外ニコトナ人カアッタトテモ　今サラ心ヲ

ウツシテ　誰ヲ形ミニハセウゾイノ　ワシヤトツトサウ云心ハナイ

素性法師

秋風ふ山乃こなたのうつろへぢ人乃こゝろもいろぢとぞおもふ

○此ゴロノ秋ノ風ニ山ノ木ノ葉ノ色ガカハッテチッテイクヲ見レバ

人ノ心モドウアラウブ　カハリハステイカトサキヅカヒニ思ハル、

宮城野はきさいの花れ合の方　ゆゝもの

悔は都ゆきけばうれしきを夜衣うちくやゝ人のかゝむと思へば

○悔ノ時ノ声ヲキケバ　モウオツケ秋ガ近イト思ヘハ　相ミニ思フ人ノ心モ秋風

ガ立テ　心ザシガ　ムスベク夜衣ノヤウニウスウナデアラウカト思フノテ　悲シイワイ

飾材流　あ為りぐ〳〵し夜衣といてふ悔の袖とかゝてぐ

うちくといそん料の枕詞のこゝ人　おそ流二の白ふうれそな

影たゝぐ

うつをゝ世はよのくるの志ぐ〳〵まバ　よゝ人〳〵ぞ

○一　世ヲノ人ノウワサガシゲシバ　ワシヲ忘レハセヌナガラ　オヅカラトヲクノデアラウト思ハル、　又人ヲ忘レハセヌナガラ　オノツカラトヲクノデアラウト思ハル、

あゝでゝ思ひむ中いそ　ぶ為ぶ後のゝ　ぶ為ぶ後のゝ

○思フ中ナラ　タカヒニアキノコヌ内ニサハナレテシマウモデヤ　ドウシテモ久シウナレバ

アキノクルナラヒナレバ　四　ゼメテ今サムタガヒニアカヌトコロヲナリ　後ノ思ヒ　五

ダシグサニシテサ　ハヤアキガキテカラハナレテハイシニモ思ヒダシグサモナイ

ワサテ　飾材　ゝ為れ〳〵ぶ為ぶ後の流ゝ為

[illegible]

○コチノ思フヤウニモナイ人ヲ思フテ山ヤウニ心ヲ苦シメウヨリハ一ワスレテシマハウゾト思ヘバ又ドウヤラ心ボソウナウテ人テマデヨリハ[illegible]キツウ心アイ ニサウ思フ心ガ付カラシテハヤマアヤウニカナウテハトテモ忘テシマハルヽデハナイ。よ秋ゑとりどハニの白へたくべし。

○忘テシマハウト思フガ必ズオレヲ恨ムナヨ 彰公ノ秋ニナラヌサキニ早ウドコヘカインデシマウヤウニ オレモ人ノ秋花ニハアウトハ思ハヌ。よ秋ゑニの白ってよゝ切て。三の白ハドヘつけてもむ〳〵。

○タエズ流テウヒニヨドンダ〳〵ノナイ山を名ノ川ノヨドンダヤウニオレガモシタ〳〵サレツカ〳〵デモアツテ思ハヌ〳〵ガアツタラナヅ心ニチリアルヤウニカノ人ガ思ウデカナアラウ

四の白。一本ふくあるとやとけふふつきて田中そきまろぶ人あるこどやのごとりはおちうるあるむしといつてまくしたさることくしたうふるきをぐさあるとバ必ずるア。方策の白れ例ばさるとやそハ法とのつぞ。

山ちうしくのつくく[illegible]ぐらう

清川のよどむしくハ[illegible]めど流をてふつ紀ちうあるふものを

○山ヲワンガエイカヌヲ 川ノヨドンダヤウニ ナンブトドコホリガアルト思フデアラウケレ尼 ワレヤ 未ウイツマデモト思フ原イ心チヤモノ ナノトドコホリガアロゾイ

素性法師

そこひなき淵やそちるぐ山門の浅きせふてなどなけくて

○山ノ川浅イ淵コソザワクト云ハタツモノナレ 底ノナイヤウナ深イ淵ガサワグ物カ

涼イ関ハケウクサウギハセヌ　テウドソンナモノデ　シミジミ涼ウ思フ人ハ口ヘダシテ
何ントモイヒハセヌ　シミジミラシウナンカトエハ　ソレヤケウク心ノ後イアダ信ヂヤ

よしの人ちらしぶ

ちるを惜みそんな花でも見れば長嘆く思ひ〜むられつもるもんや

○ 一二 サイシヨカラ涼ウ思ヒフメタ心ヲ　ドンナコガアツタトテ忘レウカ
ワレヤ　イツマデモワスレルコデハナイ

かくれた花

みちのくれちのぶのぢぞもし浦ゆゑふみそれむと思ふまるくふ

○ 一二 タレユエニ外ヘ心ヲチラサウカ　オマヘヨリ外ニ心ヲチラスワレヂヤナイゾエ
ちのぶまぢぞりの流　形見ちらし　ちすまろ〜

思ふちらといふきよとう秋風ふかびく淺茅れ色あるく小邪ろ

○ワレハコレホドニ涼ウ思フニマダケウヘヲドウセイトエーデ 三四 人ハ心ガ
ハリノシタイゾ　コレホドニ思フケウヘハモウドウモシヤウガナイ

ちぐのいろふちらちらめぐ渡ちまくふく〜秋の紅葉ろ〜よだ

○人心ハアチヤコチヤイロ〜ニウツルデアラウケレド　心ハ紅葉ノヤウニ色ノ変
エル物デハナケレバ　ウツロウノガレヌ　筑紫の流ろ〜ちすまろ〜

小野小町

うちれちむ里のちぐべふあ〜形ふうらみむとの〜人のいとむ

○あさノアマノスム里ノ業内者ニコフ浦ヲ見ヤウトハエバウハズノコナレワハ

ワンナ浦ノ業内者デモナイニ　ドウゼコデ　ウラミヲ　ゼウウラミヲ
云ウトバツカリヒタモノ人ノイフヿヤラ

ふるり日の新と〜　おもしろ漂ふ　ふれば　めふ〜ふ〜　秋月をぶ　ふれば　ぞ
とつけ　ぬをむ

○空ノクモツタ日ニハ人ノ新ノ有テモ又エヌヤウナモノデ　ソレト目ニ又エコソ
せ子　ワレハ玄ニヤセホソウテ　けヤウニ新ノヤウニナルホド　ヒラヿナレバ
人ノ影ノ身ヲハナレヌヤウニ　心ハジヤウ　ヂウ　思フ人ノ身ヲハナレハセヌ

ゆ〜　ゆよ

○色ノアル物ナラバコソ　ウツロウテカハリモセウケレ　人心ハ色ハナイモノナレバ

ソノ色モナイワレガ心ガカノ人ニ　ミコダカラハイツマデモカハラウトハ思ハレヌ

よみ人しらず

○久シウアハヌメヅラシイ人ニアハウトテヤラん　サウシモセヌノニ　ワレガト紐ガ
コノゴロハ度〜ヨウトケル　○千秋云。譯　小サウシモセヌノニとけるハ。
即ト紐をとき　もせぬふとりつゝ。

かげろふ乃そもろけ　ぬるまゝ云あれふる人なれバ神ぞめれ思ふ

○一　サウカサウデハナイカ　モウ又ワスレタクラ井ヂヤ　サテモく

アハナンダ人ヨウんレバ　イゼンノガ思ヒダサレテ　後ガサコボレル　ロの内云帖

又新拾ふ人ヲもバとけうるぞよ思き　○ふ秋云。集のうれゞみとおふ
ほうえあぐるあのしをぶ　ときぐうはーくうや思ふうるむ　ぎ語れうんみとぶとけうり

三　久シウ

○堀江ヲ往来スル小舟ノイク度モ目シ川筋ヲノボリトリスルヤワニ ロシハ
マヘ方ノ目シ人ヲ 又タチモドリく ムヤウテイツマデコヒシタウーヤラ

伊勢

ちとつゝとこのもあーとこそ波ゆうさゝふそゝぐ神や床とうれちむ

○ワシガ床ハ 久シウ寄絶テ思フ人トタヱテ森タ一モナイユエ カナシサニ後ハ
海ノヤウデ 其海ノアレルヤウニアレテシマウタ床ヂヤニ 久シブリデ又今サラ
ミ人ニ逢ウヂヤトテ ソノ床ノツモツタ塵ヲ 袖デハラウタナラ ほへ涙ノ
ウクヤウニ ワシガ袖ガ後ニウクデカナアラウ

つゝめれ

いゐしへふれをうつゝあゝ絶こ恋ーきぞふねるとれをで

○今デモヤツリ昔ニ立カヘツテ マヘ方ノ人ガ恋シイ サテモく初ワスレセヌ心カナ
ドウゾムヤウニ恋シイ一ニ初ワスレヲシテ マヘ方ノ人ノコヲバドウゾ忘レテシマハイデ

人を志のびふあひーつるてはひゞくゝみるればそのあれれ
わゝり波ゝあゝりあゝりきりるをゝふ有れるゝくをきて
よみてつゝふーーゝる

大ことれくゝめゝー

思ひ出ゝく恋ーきと紀いゝ川原のちきてゝゝゝゝゝゝゝめや

○思ヒダシテ恋シイ時ハ アノ原ノ門テワタルヤウニ 京モ此トホリニ門ヲ注
テトホルトエーヲ ムカノ内ノ思フ人ハ知ウカヤ カウヂヤトハシリハスマイ

太のおかいゝゝち恋ゝ（モウカヨヌヤウニテッタルバ）
おゝせゝり恋ゝ多どゝしをとゝしうつ絶ゝとゝゝ

よみくおろす

典侍藤原ノ[illegible]の御方に

[illegible]の[illegible]ハ今ハ[illegible]てむ[illegible]身ゆゑ思ひおきとゝろなし

○コレマデイロ〳〵ト未形モシサウニオツシヤツテトサレタ所ドモ　モウ此モドシヤシマセウヲ　ワタシガ身ガ此ヤウニアカレテシマウタレバ　今デハモウヤウナ所ナドハ此方ニハオキドコロガゴザリマセヌ

ゆゑ思ひ[illegible]ふるさとゝなれば[illegible]ぬるもバ〳〵ハ[illegible]

かるし

近院

今ハとてうへ[illegible]ひおきておのゞ[illegible]〳〵形見とやゝむ

○モウハト云テカヘシテオコサレタ此所ヲ　ヒロウテトツテオイテ　モト自分ノ物ナガラモ　ソナタノ形見ヂヤト思フテ[illegible]セウカイ

よ[illegible]の[illegible]に

[illegible]ぼ[illegible]ハつゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ思ふ

○オ[illegible]ハ今デハ　毎夜此色ヒナサル所ガ外ニアルヂヤガ　タ〳〵今夜コレヘ此出トサレタハ　定メテ道ヲトリチガヘナサツタデアラウヂヤケレド　此上トテモ何デモコヨヒノヤウニドウゾ道ヲ取チガヘテ此出トサレバヨゴザリマス　ソシタラ餘ノ人ノ所ヘ此出ナサルノデモ　実ニワタシガ所ヘ此出トサレタノカト思ヒマセウワサテ

よみ人しらず

[illegible]

○一アシバラクトヤスカラニハ　コヨヒハトツテモインデトサレカシ　ソレニナンゾヤトリイソイデトツカハトイナヒヤルハ　サテモ〳〵キコエ〳〵セヌ　カウシテ[illegible]フリモギ

ツテイナシヤル　アノオ人ノ馬ノ足ヲツヽヅカシテコケサシテクレイ門ノ前
ナ溝ノ橋ヨコリヤ
○子秋云、譯のまゝにコリヤとりに泪をそゝける。
なかにもしらざる勝ある事なくさてはよき俳諧の詞なく。
中納言源ののぼるの朝臣の近江のすけに侍りける時
よみてやれりける　閑院
あふ坂のゆふつけ鳥にあらばこそ君がゆききをなくなくもみめ
○ワシガ身モ　逢坂ノ関ニハナシテアル鳥ナラバコソ　ナキナキモセメテハ
オマヘノ近江ヘ往来ヒナサルノヲ見テヰヤウケレ　ワシハサウシテ往来
ナサルノヲ見ルコサヘナラヌガカナシイワイナ
題しらず　伊勢
ふるさとにあらぬものからわがためにひとの心のあれてみゆらむ
○古サトデコソアレテ見エル物ナレ　ワシガ思フ人ノ心ハ古サトデハナケレド　ワシガタ
メニハ古サトノヤウニアレテウトウトシウナツタハドウ云コヤラ　人のあれてはみゆらむ
ひとごゝろかはることを、餘材おほきによろし。つれなきを
みゆるハふるさとのあれたるやうにみゆる方にいへる詞の心ゆゑ方へかけてはいへるなり。
寵
山がつのかきほにはへるあをつゞら人はくれどもことづてもなし
○上
思フ人ノ所カラ此アタリヘ人ハ度々来ルケレド　ワシガ方ヘト云
テハ子カラコトヅテモナイ　上句ハたゞくるといはむ序也
さかゐのひとざね
大空はこひしき人のかたみかは物おもふごとにながめらるらむ

○ヱハ亥シイクノ形又カイ　形又デモナンデモナイニ　ドウ云フデ
亥シウ足フタビコトニ　ヤウニナガメラル、ヽヤラ

よみ人しらず

いつまでけうこうと部を仕きをむこうんでもんの形ぐさあ形くま

○又アフヽデノ形又ノ物モ　ナニヽセウゾ　ヤクニタヽヌ物デヤ　コレヲ又
テモオレハ　亥シウ足フ心カ　子エカラヤスミルヽモナイ

おやのまもりの（ツイテ井ル）むとあふいとものびよりひて
あらつひりるあひぐにおやのふといひれば（キニヤ力ヘルーテ）ときそきりく
陰とてと伐るむめぎおきて居るふりるを居をとか
つとてとてとをる　おきめを

○此裳ヲノコレテオカシヤウタハ　定メテ又意マテノ形又ニ又ヨト云ハ心
デコウゴザラウガ　コレヲ又レバ　オヽヘノヨガ足ヒダサレテ　波ガ流レテサ
海ノ法ニウク　藻屑（モクヅ）ノヤウニ　波ニウク裳デヤワイノ

影しらで　よみ人しらず
かゝるみしてを今ハあぶ（ほ）るれ　なくば（ば）ゑ流れ川もの〻ものを物を

○形又ハサ　ケウク人テデハモウ　ニクイカタキデヤワイノ　コレガナクバ　ラリニハ又
ワスレテ井ル所モアラウ物ヲ　ヤ形又ガアル所　又テハ足ヒダシ又テハ足ヒダ出
シ　シバシノ間モワスレラレヌ

古今和歌集巻第十五恋歌五

五條のきさいのみやのおほいまうちぎみ

ひとしてありしころ　むかしとなりにけるとしの
はつはるにうめのはなをみてよめる　ふるとしに
ことしはなとはうめのはな　さきてとしのかはるば
かりか　ものもいとでみの
ひとくさかのあのこいふいきさて　月のうちにまでこひつゝ
ぬるとや　業平朝臣
月やあらぬ　春は昔の春ならぬ　我身ひとつはもとのみにして

○今夜コヽヘ来テ居テ見レバ　月カモトノ去年ノ月デハナイカサア　月ハヤッパリ去

年ノトホリノ月デヤ　春ノケシキガモトノ去年ノ春ノケシキデハナイカサア　春ノケ
シキモ梅ノ花サイタヤウスナドモ　ヤッパリモトノ去年ノトホリデ　ソウタイナンニモ去
年トチガウタヿハナイニ　タヾオレガ身一ツバッカリハ　去年ノ二ノ身デアリナ
ガラ　去年ノ通リ人ニアハレイデ　モ昔ハ大キニチガウタヿワイノ　サテモ〳〵去年ノ
春ガ来シイ

二つのやハやもけたとさて結白のトヘかく
ゝてハ月やハあらぬ春やハあらぬ月も春もわれのみもとの
といへる上句少てすこうもべく此歌ハの分ハ心ちよりて詞
ふるとしとハ　ほとゝぎす　鶯　餘材ものとふるこしかの
流どものごとく少てハ春とこしぢのいきをひかか

みゝぞよく　詞のいきをひ　ひとしくこそ

ぞ　ら　ぞ

花もて　花もて　て　て　小　思ひ　ら　の　系　知て　人ふむ　もて　ゞ　ふ　り　り

○内々　系　コソ　ヲ　ウト　ヒ　ウテ　さん　デ　居タニ　ッヒ　ニ　ア　系　ガ　オモイ　ハ　タ　ー

ニナッテ　ハ　花　ノ　穂　ニデタノヲ　法　ガ　ヤウニ　オモテハ　テ　外ノ人ガトリク

ニデ　ヲ　テ　ニ　ウタワイ　ハ　法　合ナ　ヤ　花　ヲ　ム　ム　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ

系　系　ヒ　ラ　の　ち　ー　の　系　ふ　て　て　餅　材　粉　ふ　引　て

て　ふ　の　ち　き　ゐ　ー　和　を　ゐ　和　川　て　ら　し　系　ー　ふ　み　ら　と　て　ゐ　ら　む

系　が　ひ　て　き　の　系　た

○タヾヨソニバカリサテ居ヤウデアッタモノヲ　三　ヲ　デモナシニ　ナニニムヤウニナレ

ソメタ　ヤラ　ナニジケニナレナニニデ　ヲ　ヒ　ヌ　ハ　サテ　ク　ッ　ラ　イ　モノ　ヂ　ヤ

ヲ　ぶ　ぶ　ー　系　ほ　思　ひ　む　人　も　ゞ　る　さ　て　も　や　う　ね　て　ま　と　ち　ら　ち　む

系

○サテ　ク　ウイ　ヤ　オレハコレホド　人ヲ　系　ウ　ヒ　ニ　人ハ　ヤ　タ　ソレホド　ニ　ヒ　フ　テ　ク　レ　ヌ　オ　レ

ガ　ヒ　フ　ヲ　リ　ニ　オ　レ　ヲ　ヒ　フ　テ　ク　レ　ル　人ガアレカシ　ソレデモヤッパリ　ヤ　ウ　ニ　ウイモノカ　タ　シ

テ　ヌ　ヤ　ウ　ニ　セハ男女の中をいふぞ。ふれるぞとつて河の澤ならばハ一首の澤のうちふそのうちハあれバなるべし。

もゆ　かく

ひさうさのあまつそふもも　ゐ　ま　く　ふ　人　ま　ま　ま　で　ヒ　ま　ば　ー　ま　ふ

○天ニ任デ居ルワレデモナイニ　ドウニタイカ　人ハワレラトホヨウニサヒフ

ヤウスニオモハル

ゑてもまた又もゑゃくはなりけまばゆくを人はいとまぼゆくあるを

○オレハをテモくヤッパリ又くアヒタウ足フニ人ハ修ナルノヲイヤガ

ルヤウスニスエル　ゑまくはなしくもじ、ゑまくのほしきふし

つゑをくなきうよハ代格あり

きのとしのつ

ちもかくなぎくくいきのあるれやいくくれてのくをばへぬるむ

○雲モナウテ風モナイデアル秋ノ天ハヨウ晴テアルモノヂヤガ　オレハソノ

ヤウナモノヂヤヤラ　人ニイトヒキラスレテバッカリ一生ヲタテル　カウタトヘテ

イフワケハ　基晴ト　五輪ト　祠ガ因シテヂヤニヨッテサ　哥ト云モノハ

アヂナ〻ラヨムモノヂヤナイカイノ

くみ人くらはば

○一　ホカニイクタリモヨイノガアルナレバ　ワレガヤウナ人カズデモナイノ　ガハ

ワスレラレタデアラウ

うきゑのくおひてなゞく浦ふれバかくふのくくそいはハよるくあ

○ナニ、ツケテモウイコトバッカリデ泣テクラスワレナレバ　足フ人ノタ〻くニ

ミエルノモ　タヾカリソメニロフサゲニチョット立ヨラルヽバカリノ〻デコソア

ラウケレ　マコトノ心ザシデゑエルノトハ思ハレヌ

いせ

あひよいひてあるくひの高仲小ふやどる月さへぬくがれなる

○此ヤウニ物思ヒヲシテ泪デ袖ノヌレテアル時分ヂヤトテ 其袖ヘウツル夕月ノカホマデガ ワシガ泪ト同ジヤウニ ヨウソロウテ ヌレテ見エル事ワイノ

あひにあひて物おもふころのわが袖にやどる月さへぬるゝかほなる

よみ人しらず

秋ならでおく白露はねざめするわが手枕のしづくなりけり

○露ハ秋ヨウオク物ヂヤガ 秋デナシニオク露ガアル ソレハ 物思フテ夜半ニ目ヲサマシテ居ルワシガ枕カラ床ヘオチル泪ノ雫ヂヤワイ

すまのあまのしほやき衣をさをあらみまどほにあれや君がきまさぬ

○[上]道ノアヒダガ遠イユヱカシテ 手ガ遠ヘ 一ト夜モ来ナサラヌ アヽオソイ事ヂヤ

上句はまどほの序也

山しろの淀のわかこもかりにだにこぬ人たのむ我ぞはかなき

○[二]セメテカリソメニチヨツトサヘ来テクレヌ人ヲ 頼ミニ思フテ居ルワシハサア、ラチノアカヌ心ヂヤ

あひ見ねば恋こそまされみなせ川なにゝ深めて思ひそめけむ

○ワシガ中ハ 水ノナイトイフ名ノ水無瀬川ノヤウナモノデ 逢フ事ガナケレバ タヾ恋シイコトコソマサレ 水ノマサッテ深イヤウナ事ハナイ中ヂヤニ ナニシニ末カケテ深ウワシハ思ヒソメタ事ヤラ

暁のしぎのはねがきもゝはがき君がこぬよは我ぞかずかく

○暁ニハ鴫ノハ子ガキトイフテ 鴫ガキツウシゲウ羽タヽキヲスル物ヂヤガ 君ガコヌ

夜ハソノ鴫ノハ子ガキホドシゲウ　ワシガサイク夜ドナシニタメ息ヲツイテ嘆（ナゲ）キマス

此歌ハ下句のまどろまぬ人なし　数かくとハ数々への暁の百

羽がきの絶ずよりていつまでもねでハたゞ数きをるとのこゝろざしよしく。

玉かづら今ハたゆとや吹風乃おとにも人のきこえざるらむ

○［一］モウハキレテシマウトテヤラ（ニやあらん）　此ゴロハイッカウ　［三］オトヅレモセヌ

わが袖にまだき時雨のふりぬるハ君が心に秋やきぬらむ

○マダ（まだき）ソノ時雨デモナイニ　此ヤウニワシガ袖ヘ時雨ノフッタハ　君ガ心ニ秋ガ

キタカシラヌ　ソレデ此袖ノヌレタハ涙ノシグレヂヤ

山の井のあさき心も思ハぬに影ばかりのみ人乃見ゆらむ

○ワシハ山ノ井ノヤウニ浅イ心デハナイニ　ドウ云ヿデ君ハ　イツデモ影（かげ）バカリ

見エテヨリツカシヤラヌヿヤラ　たがためのことハいつもつらきにこそれまさる

頃よりハわびしのことハ行とてもものゝこゝろ。

わすれ草たねとらましを逢ふことのいとかくかたき物としりせば

○此ヤウニキツウ逢コトノナリニクイモノヂヤト云ヿヲ　トウカラシツタナラ

忘草ノタ子ヲトッテオカウデアッタモノヲ　ソシタラソレヲ蒔（マイ）テハヤシテ

此節恋ヲワスレルヤウニセウモノ

こふれども逢ふ夜のなきハ忘草夢路にさへや生ひしげるらむ

○ナンボ恋シウ思ウテ　寐テモ　夢ニモ　逢ウト云ル夜ノナイハ　カノ人ガ

ワシラ忘レタワスレ草ガ　夢ノ道ヘマデハエシゲッタカシラヌ

夢にだに逢ふことかたくなりゆくハ我やいをねぬ人やわするゝ

○爰ニサヘアハレスヤウニナツテキタノハ ワレガ抱ヒデエ子ムラヌユエカ
又ハ君ガワヲ忘レテ心ガカヨヌノカ 俳枕草子

もろこしも爰ふえしうバをとりて見ぬ中ぞ恋をかりける
○唐ハキツウキをイホヂヤトサテ居ルニソレモ爰ニゐタレバ 近イコデアツ
タガ トカク唐ヨリモドコヨリモ きをイノハ見ハヌ中デサ ゴザルワイ

さゞめくぞ
ゑとりのゝ形ぞめぬる色のつゆ形れバ人をもぬれぬ夢ぞおひける
○長雨ガフレバ フルイ家ノ影ハ クサツテ忍草ガハエレゲルヤウニ タツタヒトリ
抱ヒノシンキナ ナガメバツカリシテ月日ヲオクルワタシナレバ人ヲ忘レ忍ブ心

ノ忍草ガサシゲウナルワイ

俗正通略

ゑ取ぶハ色ともなきまでいろふかしつもるき人をとゝまつゝせゝまて
○心ヅヨウテ来モセヌ人ヲ クルカクト待テ居タマニ ツイ月日ガタツテコ
チノ在ハ 弟ガアノヤウニシゲツテ 道モナイホドニアレタワイ
人うこむゝいひてゐをゝ いのゝさゝり思ひたしの袖とのゝぞゐく
○チカイウチニ又来ウトシテ別レテイシダ敷カラシテ 毎日ミ人ノヲバツカリ
思ヒグラシニクラシテ ヒグラシノ鳴ヤウニ オレヤ泣テバツカリサ居ル

よゝ人ゝらば
去年やとは思ふものゝ今ぞしのなく夕暮ハさちまされて

○ナンボ待タトテ来ウカヤ クルーデハナイトハ思ヒナガラモ タカタヒ
グラシノ鳴クジブンニナレバ 門ヘ出テ立テ居テハ モシモヤト待ッ心
ガアッテ ドウモ思ヒ切ッテハ居ラレヌ
今〳〵ハ〳〵ヨビフ〳〵初をさ〳〵グふ秋ふかく アヽ初をたのむ心
○カウ久シウ来ヌカラニハ モウハト思フテ カオトシテ気ヲクサラシテ居タ
モノヲ蛛ノ糸ガキルモノヘカヽッテ ドウカ又れミノアルヤウニ思ハセルハ蛛ガ
蛛ノ糸ノキルモノヘカヽルノハ 待ッ人ノクルシラセデヤトヤラ云フギヤニヨッテサ
ハまハとゞと思フのか〳〵ワもれつゝ降るゝこのまぐもやまぬう
○モウ来ルコトハアルマイト思ヒナガラ シラワスレテハ又シテハ待ッ心ガ
マダマアヤマヌカナサテモ〳〵

月花よハとぬ人まちるかさゝりあもゆゝるむらびつも秋を
○ヤウニサヤカナ十月夜ニハ 来ヌ人カモシヤ来モセウカト待シテキガモメル
イツウ マツクラニ畳ッテ雨ガフリトモスレバヨイニ ソシタラッライ
ヂヤト思ヒ〳〵モ涙テシヽハウニ
うゝ思てふ〳〵秋田かゝまでつゝとゝびけさ初月の秋をぞ待きぬう
○五月ノコロヤ田ヲウエテオイテインダ人ノヤウニモウヒ田ヲ炒ルジ
セツニナルマデ 待デモ〳〵ワせ子バ サテモ〳〵ナサケナイ人カナトオモ
ハレテ ケサ始メテ雁ガナイタガ ソノ声ノヤウニサワシモナイタ
古ぬ人をまち夕ぐれの秋風ハいうふけバうらびしかゝむ
○コヌヽヲ待テ居ルヲカノ秋ノ風ハドノヤウニ吹コトデコボド悪ケツライマヂヤヤラ

久しくもなりふるかみ山の松の枝のまつはるしるしは物までかなる

○ワレガ思フ人ノ来テ見タハイツノコデアッタヤラソレカラ一向ニアハズニモアリ
久シウナッタコトカナ　来モセヌ人ヲ待ノハサテ〳〵クルシイ物デサゴザルワイ

久しくとい濡ふ行のえだにかとつひきたれをまつふりけるく

もみのえだまちわびてくふなるもぬるとびあしぐの海よりなりかはし

○コヌ人ヲク分〳〵ト待テ居ル内ニ久シウナッタハ毎日ナカヌ日ト云ハナイ

れゝゐの紅にうひちるばかりもかゝふるり
ふるもびちゝがやまるをはるゝふるもゝまかるとて
みとはたゝるゝ　伊勢

みとはいふまちみむ年ぬゝしるかめるゝ人もなげゝ思へど

○ワタシモモウ京ニ居テモオモシロウナイニヨッテ　此度大和ヘ下リマスルガ　三輪
ノ山ヲトムライキマセト古哥ニヨンデアルヤウニ　今カラアノ方デ恋シ
イ人ヲ待タトテモ　何年タツトモ　タレモ尋ネテ来テクレル人モアル
マイト存ジマスレバ　トウシテマア待ヲヽセテ逢ハセウゾイノ

ゆくすえ

しらば

水林院のみこ

○アテコチトフキマヨウ　セノ風カサムサニ　萩ノ花ノチッテユクヤウニ　ヨソ
ヘウツクテユクカマア　人ノ心ガ　飽ハてるしあけよるし

をのおもち

今ハ〳〵て多分時雨よ高とぬれバ[illegible]のもき〳〵ふるうろひふり

○ワレガフ片ナツタレバ モウイヤト思ヒテ 一ヘカタオツシヤツタ古物来ノ上絞

一デガチガウテ糸ワタワイナ 時雨ハふりとひひ又[illegible]のもうろふ

しいそむ粋ろり ○ふ秋元けろハ二三一四五と。

白をつけてこうろうべ。

この〳〵

小野ちぐ記

人を思ふんうのもふあ〳〵ハうを風のまふ〳〵ちうもみ〳〵れめ

○人ヲ思フ心ガ本紫ナラバコソ風ノフクニシタガウテ チリミタレモセウ

ケレワレガソナタヲ思ウ心ハ 木ノ紫ノ風ニチリ乱レルヤウナカルグ〳〵

レイ心デハナケレバ 行ヌガアツタトテモ ナンノメツタニカハラウソイ

なるひの紅葉きのうろう祢ぐむすろふもみけ〳〵を

（ノモヘカヨヒケルガ）

うらむ〳〵のうをそてきぶ〳〵のあひぐ紅ハきてゆ〳〵

（イツデモカヘリケレバ）

さりハかりのし〳〵ハるもバよりみて行ハ〳〵ま

あ戸をのようをふもんのありゆ〳〵ちもぐぶめふハんゆるおう〳〵

○空ノ雲ハ目ニハ見エルケレ手ヲイヨウナ物デヤガ オマヘモ近ヒハテウドソレデ

見ハ出ガアツテ サスガ目ニハ見エンエハ ヨソ〳〵シウナツテ一アニ

子カラ夜ルオトリナサツテ一サルハナイ サテモ〳〵キユエセヌナサレカタカナ（ミカ）

ゆきうろ空ふのう〳〵てふるあ〳〵ハるぐるる山の風ちやこなり

紅葉の紅作

○ワシヲ雨ニ一ニタトヘラレタガ ムホドヨイタトチヤ チヤノヤウニワシガ イタリ

キタリバカリシテ足ヲトメズニタテルノハ 其雲ノカツテ居ル山ノ風ガ

ツヨサニ トビ一ツテ居ルノナラヌヤウナモノデ ワレガカウテ居ルソチタノ
心ガヒヅクサニ ドウモ夜ハト一ラレスギヤワイノ ふくハ為手の強し。

秋風

かぜはらしのおわさこと
庵名残をバ身ふくてまつ乃も先うけてのこやいらひむとこそ思し

○キルモノハ着ナレバヤハラカニナツテ身ニヒツタリトツキ一ウハレル物ナレハソノ
タリ云モナレタナラバ身ニシタシウコソナラウハズナレ ソレニ訓テカラモヤツハリ
ヤウニヨツクシウテ ジヤウヂウ心ニカケテ衣ヒウ見ラテバツカリ居ヤウコトハ
思ウタコトカイ ナニテタラモヤツハリヤウニアラウト思ハナンダ かけてハ衣の強人

とゝのり

秋風ハ身をふくとしも物うかくふ人のこゝろにたなびくむ

○秋風ハヤヤ旁ナドヲ吹ク様ニヤウニ 人ノカラダヲ分テ腹ノ内ヘ吹テハ
イルモノデモナイニ ワレガ思フ人ノ腹ノ内ナ心ガ風ニ木葉ノ空ヘ乱ヤウニヨリ
ヘウツタハドウニコヤラ 上句の侘蝕枝ちゆ乃ふるゝ からの流ゞも
のゝ〳〵出テハ身をふるてしいとゞつゝ。

源宗于朝臣

ちまもなくなるゆゝ人のこゝろをは秋ちさ紀のあ乃ふるゝ

○次ニツレナウナツテユク人ノ詞ガサハ 秋コリサキノ あ乃ふギヤワイ ナゼトイフニ
方方ニテオイタ一ガサツハリカハツテ ニウタウサ 木葉ノ色ノヤウニ
ビヤウキノジセツ
ちゝちそこ紀てうくるゝあひちりて侍ら人のとハ
クワイキシテカラ
でらちおこりて後とゝ〳〵へとりれバよみて侍う

ハ一多ル

ちでは出ものぬるてでかへりはつ〳〵人ちまづ出じそし

○サキダツテハワタシモワヅラヒニシテスデニ死ニスデアツタガワレナイオ、ヘヨリ

先ヘワシハシデノ山ハコエマイゾト存ジテこを禁とホツテえテサモドツテ糸ツヾシタ

あひもとろ〳〵人のやりやくかとかこふなりけるこのゝ

ふやをゝるちれ禁ろ多をきして老ハをりゝ

こまちがはる

時るとてかをゆくをの〳〵淺芽ホハ今ハ思ひぞたゝをりえける

○秋モヨテ冬ガレニナツタヤハ火ラツケテヤイテモ元物チヤガ テウドチ

色リデ年ガイテオヘノ忘ノカレ〳〵成タワタシハ今デハモウ老位物思ヒガサ

モエニスワイナソレデ浅芽モ此色リニヤケヽシタ ゴラウジテトサリマセ

ゝとのおりひるゝ〳〵ゝ待あ〳〵ゝかりゝ〳〵ゝふせ大のゝ〳〵えけ

いせ

多〳〵枯のゆべしゝゝ多ゝ思ひをバもえてもちゝゝまゝゝゝしあを

○人ニえステラレタワシガ身モ 多〳〵枯ノアノヤチヤト思フナラ アヽシテ焼ヤ

ウニ 今コソ思ヒガモエルケレモ ソレデモ又春ニナツタナラ 芽ガデルデアラウト思テ

春ヲ待ウモノヲ ワシハモウアノ多〳〵枯ノ野トハガウテ 老ニナツタトテモ芽ノ

デル杉ミモナイ多デヤワイノ 従女シウモス井リヤウシテタモイノ

ゝとしけり

ゝうのあるものきゝえてうき多しソ

ひるゝ〳〵法れて行も枯まるゝ〳〵

○水ノ沫ノキエルヤウニキエルホドウイ我身ヂヤト思ヒナガラ イツモカウ
バカリデモアルイト ヽダ末ヲ杉ミニ思フテヤツハリヽア消モセズニカウシテ
居ルハサテ〳〵ラチノアカヌ我心カナ ○お秋云なら〳〵へてをゐの孫
そぬぐ〳〵ものてしいつり。

みるせ川ゆくてゆくみなくいとをたちひふ赤身をたちぬと思ハ先

○水ヲ流シ川ニ有テ流レル水ガテイナラバコリ ゐガ中ヲ トラク切レテ シ
ヽウトハ思ハウヨナレ 水ノナイト云名ノ水ヲ流シ川サヘヤツハリ名ハアツテ流レ
ルナレバ 赤中モ絶タヤウナレド ヤツハリ孫ハ身ヲテ タエキリハセヌヨモアラウワ
世の白ヒガ中をしいべきと身をしいるハ〳〵いとん。
身をふ川の水脈をかゆ〳〵ふや。

よ〳〵世のよ〳〵やく人〳〵をたゝ〳〵かゝらめとやくいひてしたゝ〳〵ハ云ヒ

みつ孫

○人ノウライハ 一 ハテゼヒガナイ 人コリツラカラウケ オレハヤヘカタヲテオ
イタコトハイツヽデモワスレヽイト思フ そやくハ云世川の孫
よ〳〵人〳〵を

世中ハ人の心ハ花ぞ失はよりりろひやうれ色ぞ有ル

○世中ノ人心ト云モノハテウド花ノ色デ カハリヤスイあヂサゴザルワイ
ろ〳〵をうたてかくり絶そあぎ〳〵つろ〳〵もをしか〳〵まも

○ウタテヤ人ヲ思フコチノ心ガサニクイヤツヂヤワイ コチカラ思ハズハサキノ心ノ
カハルモ惜カラウタイ 人ノ心ノカハルガツライモ コチカラ思フユエヂヤワイ

名にハいはざれども。二の句ハ名ふつきていへる詞なり。

こまち

色見えでうつろふものハ世の中の人の心乃花にぞありける

○草ヤ木ノ花ハ色ガアルユヱニウツロウヂヤガ　色ハアルトモ見エズニウツリカハルモノハ　世ノ中ノ人ノハナゲシイ心ノ花デサ　ゴザリマスワイ

色見えでハ名のなきをいへる。餝我初二句の詞ろし

よミ人しらず

恋のこゝや名ばかりむかしをしれきろびを人の心にたとへたらバ

○花ノチツテシマウタヤリ一　ソレワ人ノ心ガカハツテ　ノイテシマウタナラバウイコヤウライコヤトイフテ　相手ナシニワシヒトリ　昔ノ鳥ヤウニ泣テ居ルデアラウカ

其ハ男女の中をとりふ。おのか下句を人の心の花とたとりふ。ちりゆきて行るハあハれし。花とハ名ばかりにていへんがめし。皆しのぶべきなるべし。

花ハ上ニウライコトヤト云フテ…　○よみ…の深ニ泣テ居ルデアラウカと…

そせい法師

おもふともかれなむ人をいかでかもあかずちりぬる花とこそ見め

○イカホド好念ニ思フタトテモ　心ガカハツテトホノイテシマウタナラバ　ナントセウゾ　ドウモセウコトガナイ　スレヤ　マダスタラスウチニ草ウ散ル花ヂヤトヲモウテ居ヤウマデ

よみ人しらず

今ハとて君がかれなバわがやどの花をバひとり見てやしのばむ

○モウヨレギリト思フテ君ガトホノイテ来ヌヤウニナウタナラ　コチノ方ノ
花ヲバワシヒトリガ見テ　君ノヲヲライロ〳〵ト思ヒダスデアラウカ

むかしの朋友

忘草かもやもろ〳〵つまもなき人のゝふ草ハおうるなり

○人ノワレヲ忘レタリスレ共モ我テモシレ又モトノヤウニ思フテクレルヿモアラウカト思ヘバワレヲワスレタツレナイ人ノ心ヘ草ガオケバヨイニト思ハレル草デハナウタイ草ガ枯ルモノナレバ　そワレヲ忘レタ忘草ノカレルヤウニサ

宮ゝ御時に屏風ゝ書かせ給ひけるときよみて

うゑ草

そせいゝ

ときて絵草ゝをうゑ草ゝ思ひ〳〵ハ浅れなき人のむかりなり

○ワスレ草ト云物ハ何ヲタ子ニシテハエルコトカト思フタガ　フノタ子ハ　ツレナイ人ノ心デヤワイノ　ハテワレナイ心カラシテ人ヲバ忘レルモノデヤワサ

秋の田はいまてふ〳〵とかゝまほしくふかをとしとう人のかゝ〳〵む

○一　ワレガキラウテモウイ子ト云物ヲカケノタ〳〵モナイニ　人ノヒヤウニ云ヒノイテ来ヌハ　何ヲウイト思ウテノコヤラ　かけ〳〵皆稲の稈の物心

きの法〳〵ゆき

初戸ゝ見ゝて添きよの中ハ人乃こゝろ草ハ秋〳〵うけきバ

○人ノ心ノ秋ガウイニヱニ　ワレハ〳〵ラワタレ初戸ノヤウニ泣テナタテルワイ

よみ人しらず

この人もとうしとも知を思ふとなどう涙のくなるるむ

○拍ラアハレト思フ所モ ウイト思フ所モトカク涙ガホロ〳〵ホロ〳〵
トコボレル ナゼニ代ヤウニ涙ガ イソガレウコボレルヿヤラ
餞我ものもとも ふ〻ぐ〻しく〳〵きぬ。
身をとう〳〵思ふきえぬ

○キワウオヲウイト思ウニ六命モ消サウニ思ハレケレドモ ソレデモサスガキ六セヌ
モノデヤ スバ此ヤウニウイオデモ ヤウハリソレナリニ クッテ今世デサゴザルワイノ

典侍藤原直子朝臣

いのまのかゝ蘆よりむ〻しけ系かとふをこそ恨めをバ恨ミじ

○ほ寸苅ル蘆ノ中ニワレカラト云虫ガ住デサル拍ヂヤト云ヿヂヤガ 是虫ノ名

ノトホリニ 何ヲモワレカラヂヤ 我身カラノコトヂヤトレウケンシテコソ
泣ナラ泣キモセウヿナレ ツレフウ人ヲバ恨ミマイブ ヨウ思ヒ六ハシテ人レバ
人ヲウラミルノハ大キナフカクヂヤ。よ秋云ゴレ〳〵のヤ已つ〳〵思ふよ。
虫のゴ〳〵だう秋〳〵ものあ〳〵ぬ系ものかゝとへつふをあ〳〵ゴ〻又は人と
ひて系う〳〵いつ了泊ハ仁法紀ヿあまうれやなのゴねう〳〵祝ろく。と
あ〳〵をもひてゴるん

いなゼ

あひえぬもう〳〵沢も系かけう〳〵系思ひそ〳〵とと〻る系も式

○是ダイ人ニアハレヌノモ 是人ノウライノモ ミンナ系カラノヿヂヤ スレヤ
ドレホド思フタトテ アハレルヿデハナイニ 代ヤウニト拍ノトケルハ サテモ〳〵アア
ガテンノワルイト拍カナ トモものとく〳〵人よりゴきとう〳〵。

実盛はきさいの去れる合はせ　そぐはぬ御おれ

はるもれき成人〳〵ハことひどと思へども心よろこくことあるれるごこの

○ツレナイ人ヲ　モウ来シウ思フマイゾト　タシナムケレドモ　ナントゾスルト思ヒ

ダシテ涙ガコボレル　サテモ〳〵アノ心ヨワイヿカナ

歌　そ〳〵ば

人をとび角えれれよ〳〵うバうびつくもれき名ごとだふいそ命〳〵あと

伊勢

○シヾウセワ乃ヘシレズニ絶タ中デアラウナラ　絶ルハツライヿナガラモ　来イヲ

デヤト云テ　セメテハウキ名ノ立ヌヤウニナリたセウモノヲ　ワシガ中ハ　ハヤ世ノ人

モ知テ居レバ　来イヲデヤたイハ子バ　絶タバカリカウキ名サヘ立テ　サテモ

サテモメイワクナツライヿカナ。ふれ去ぞてきーねと〳〵うる云ハ代源のごとく。

ちなくことをくるもるくんとうくべー

そ〳〵ぶふ思ふ〳〵とて　ようみ人〳〵をば

○人ヲ係ウ思フ時ニハ　モ人ノ家ナリたんタイヤウニ思ウモノヂヤガ　サワツ子ぐ

思フテ居ルヿトテ　ヒヨワト心ノハシニモ　ワシガホヲ　四　アタト云ヿモ　五　人ノ世ノトコ

ロデ必ズ云デハナイヅヤ　エテハウシナヿカラシレルモノヂヤ　ひきハおたに入べき

ふ行〳〵ば絶ると飽れハ新ふなづて　ものをふとぐり

世系ヤ〳〵むう〳〵たまれ〳〵　ぐ〳〵ぐう新えの濁りもなう〳〵ん

行ふすのすう〳〵絶めるけふ　そ人の云〳〵きとあ〳〵もうり絶

○自由ニアハレル時ニハ　来シイト云ハドノヤウナモノヤラシラナンダニ　今ノカウスキ

ト絶テアハレヌけれニナツテハジメテ人ノ来シイヿモ知タワイ

よびとるほさくのかるのしたそいづこともつぶ後るゆふ
○ひやウニ玄ニアグミハテタはそれニサヘ　ミ人ヲヤッハリニイトシイ玄シイトヒ
ウテ海ノコボレルハ　ドコガ玄シウテクーヤラ　ひやウニウイツライメニアハスル
人ナレバ　イトシイコモ玄シイコモナイハズヂヤニ　ひくれしきハいし
わしくはくまくさて三の白しものぶ後しいて泊とたづひふ
おまづくてんぶぐし　おすふ恵びよ後のおつんしなるハたづう
春京おきうぐ
はしてもおきてもはそむかてどるおき後ふみ四ら新るぶぐして
○ウランデモ泣テモ　ひカナミサヨバ泊ヲ相手ニシテイハウブ　ひフ人ハモハヤ泊テ一向
ニアウイモナケレバ　後ヘウツルオヒガ新テナウテハ外ニおもニシテ玄ウヤウハナイ

ゆさきとバくるほとこそはうちうしひ歌うむしあしるれる歌多う
○ユラカタノテレバ　君ガキテ床モセヌ床ヲハラウテ　独リ子ルトテハ　イツノ夜デモ
イツノ夜デモ　ウライコヤトヒラテタメイキヲウイテ子ルデヤガ　ワレハアひやウニ
ウライ欲キヲセウタメニ　生レテキタメカヤ　サテモくイニヂウナ多カナ
ふつとこの家多こるくこそくりうはのもむてふくくみつるうる
○サハリ絶テシウタ中　チヤノニ　ミ人ノ心ノカハツタコヲ　又ヒツカヘシテひやウニ伯
メシウヒフコワイノ　今サラ昭ニダトテナノセニガアラウブ　サテモグチナワニガ心ハ
ひくくこ小田とあくくきこのしかくくてもくのくに後ふてくくそやまあ
○アラ田ヲ行ベンモくスキカヘスヤウニ　アアイベンモ人ノ心ヲトツクリト

ヨウカンガヘテ人テコフ　モウラナアカヌトエヿハ定メウヿナ」

○涙ノ真砂ノ数ハヨミツクストエテモ　永遠ハヨンデモ〳〵ツキマイナド、

ギヤウサンニエテ　ワシヲヨロコバシテオイタ　ソノ涙ノ〻サゴノカズハ　ミヅクサイヿノケシカラヌタトヘデサアツタワイ

いつ〳〵べよりきめとさしてゆくあのいやとおざるあなかるゝよも

○芦原カラそヲサシテヅヽトゑデユクあノダン〳〵トきをウナルヤウニダン〳〵トヨフ人ノトホノイテユクワシガ身ハ一アカナレイヿギヤ

きづもつゝもみづゝるゝも忘れ紫乃くんの秋よほのぶでるびき

○はゑガフリ〳〵シテ木紫ノ色ノカハツテユク秋ノコロハツライモノデヤガ

ソレヨリハ　ヱテオイタ河ノカハル　人心ノ秋ニアウヲガサナホツライ

秋風のふさ〳〵吹めゝむさ〳〵やハるべく革系の色かりゝゝと

○秋風ガフキサヘスレバ　アノ廣イ武蔵野デモ　ヤハサツ(ゑ一て)リミナ革ノ色ガカハツテ枯ルワイ　人ノ心モソノトホリサ　飯村ゑ〳〵

小町

秋風ふかぬたのゝそかるゝ〳〵ゑ猪ヨゲこむゝ〳〵ゑりぬ〳〵ゑへバ

○秋ノ大風ニアウ稲ハサキノドクナモノデヤ　百姓ノ彩ミニシテ居ル田ガサウハリシヘヒニナル　ワシガ中モテウドソンナあデ　人ノ秋風ガフイテ彩ミニ忍フタヿガ　皆ムダニナツタト思ヘバサミカナシイワイノ

ものゝミハ田の実ふゝせゝり　さてはの白　あ身むゝ〳〵くとづけ

ては名残しるし。あきは秋風にあふといふへかゝる。むなしく花のえだにかゝれり。

あひしらざる婦人

秋風乃ふきうらがへすくずの葉のうらみてもなほうらめしきかな

○上 ウラミヲ云テモ〳〵マダヤッハリ恨ミガハレヌ サテモ〳〵ウラメシイコトカナ

よみ人しらず

秋といへばよそにぞきゝしあだ人の我をふるせる名にこそありけれ

○秋ト云コトヲバ ヨソノコトノヤウニサ思ウテ居タガ ヨソノコトデハナイ ウツリギナ人ノワシヲ捨タノガ ワシヲアキト云モノデ ソノ名デサ ゴザルワイノ

忘らるゝ身をうぢ橋の中絶えて人もかよはぬ年ぞへにける

○テウド橋ノ中ガキレテアレバ渡ル人モナイヤウニ 思フ人ニ忘レラレタ身ハウイモノデ 五行年カモウ子カラ使モコヌワイ ○よ秋えにの白くもかよひぢしてこと[illegible]なきばやなくきこ

又そこたちくにくもうよりて

坂上これのり

あふことをながらの橋のながらへてこひ渡るまに年ぞへにける

○逢フコトモナイニヤッハリおかハラズ恋シタウテ月日ヲオクル内ニサ ハヤ何年カ立ッタワイ 又ハアヒタイ〳〵ト思フテ恋シタウテ月日ヲオクル内ニサ ○よ秋え橋の譯[illegible]

とものり

うきながらけぬるあわともなりなゝむ流れてとだにたのまれぬ身は

○セメテハ又来デナリトモ思フ望ミサヘナイワシガヤウナウイ身ハイツソノコト水ニウキナ

ガラ消ル涙ノヤウニキエテシマイナリモスレバヨイ。よれこうれぬ〜〜ハ憂きまま
そのことふきさるべし。

よみ人しらず

流るとてはいもせの山の中を落るよりやそのかわ

○紀ノ國ノ妹山ト世山トノ名ザヘ　吉野川ガ流レテ来テ　中ノ〜ダテガ
アルカラハソウタイ人間ノ男女ノ中モ　イツデモ始メノヤウニムツマシウハナイハズ
ノ一デ　久シウナレバ　オノヅカラカレコレガ出来テクルノモ　ソノハズノ一ギヤ
ハテセヒガナイ　山デサヘサウデヤモノ　その中ハ男女の中浅い
つるしもべく男女のわかれひを。そもそもその中ともい
つるすの意。ふかおくべし。

古今和歌集巻第十九を終

春傷歌

いもうせ山まかりさる時よみ侍る　小野ふるひめの朝臣

なく涙ふる雨ハ雨ハ降ぬれど　ふりにのあまりなるかふ

○雨ガフツタナラ　三途川ノ名ガマスデアラウ　ソレダラ　妹ガヨウ渡ラズニ又
世ヘ戻テクルモアラウノタメニ　イオレガ泣ク涙ガトウブ雨ノ色ニナレバヨイ

さねのおもきおもわいまちぎる浅茅門のかりふ

送葬
おくりきそ病ふ　そもそも法師

ちの涙おちてそたぎつ句　門ハ実ノよりでの名よりそみ二ハ

○比川ノ名ヲ白川ト云ハ 比叡オカクレナサレタル良房公様ノ比丘世ギリノサ
名デアウタワイ 比叡ノ比カクレナサレタルハ 悲シサニ法僧ガ泣クトキハ赤イナ
血ノ涙ガ サワサト流レル スレヤモウ白川デハナイ 赤川ギヤ

ほうそうはのおもきおもいすらも 夏みまりふるあふ
ぬるゝまよ山ゝをさめて ゆる落よるみきる

信都 勝延

うゝ 悼ハカ〻ヲヌギステく オイテドコヘカイデシマウカギヤガ ソレモワノヌケガラハ
イワヾデモ ホッテアルニ 人ハ死ヌルトソノヽ ヌケガラサヘ焼テシマウテ 跡ヘ残
シテハオカヌモノデ 此基ハ公様モ比丘 嶺サヘノコラヌハ サテ〳〵オノコリオホ

イ〻デヤ セメテワノ比火葬ノ煙ナリモ残ツテアレ 山ハ源義ノ山ヨ ワシタ
ラワレラヌテナリ 比丘ノ嶺ノナゴリギヤト思フテ 少シハカナシサヲハラサウニ
なぐさうゝ〻いふ〻 悼の方にいひ〻ども〻ハ悼よハ分らぬ 悼ふハ
かゝとヌテなぐさめるゝ 比叡ハ焼ふたて そわをヌテれ
ぐさうゝ〻いふをうると 止ふりひて 泣ぬせたるものゝ たゞおふハ
かるゝ〻わゝ さる仏をそ〻でハまどふ〻ゝ〻わ おくべし

源義よれ 世べの 楊 〻〻ろわ

うゝつをのみをを

○比叡ハ基ハスヲヲサメシタ比 源義ノ山ノ楊 心カアルナラ 今年ハガリハ
喪深ノ色ニサケサ 人モミナ喪深ノ服ヲキテ居ル春ギヤニ

藤原敏行朝臣の女ほうりふるほふよみてかの家
ふちはしける　きのとしのつも
行てもみん西海にもあしらんとたのもしかりけること
○山賤ノソコモトノ心不幸ニウイテ　ヨウヒウテアレヽスレバ　義トシモノハ　子ムツテ居テモアルルモノナリ　又病イデモアルルモノデゴザルワイ　サ人間ノ世ガサ　ソウタイミナ義デゴザルワイ　スレヤ病イデモアルルデヤワサアミ敏行朝臣ノヤウニ存ジマス
ひとりふるさとのみよかりふれば　きみはたゆきとなるらん
義ヽそいまゝ世中ふうつあるはしらひけるかの

○世中ヲバソウタイ皆義トサ云ウテ　チヤワイ　ソレニ今ヽデハ　正ヽノコトガアルモノチヤトヨフテ居タハサテモアハウナーカナ
あひ見てのちの心にくらべばむかしは物を思はざりけり
みふのたゞこ
ゆくゝかうちふるとのみやハ義ヽ　なくいとむはらの紙をもうつゝ紙
○子ムツテ居ルウチニアル義ハカリヲ義トシウーカナ　ソレバカリデハナイソウタイ山ヨ人ナヨノ中モ正ヽノコトハヨハヌ　ミナ義デヤ
ゆくすのみまわりふるゝ時よみる
閉ヲヒケバ閉ヽなりてもよごみりも引ヒ成どもるまゞ　みぞのき
○川ノ閉ヲ　ムガラミデセキトメレバ　流レテユノ水デモ　閉ニナウテトヽルも

チヤワイ　コレニサ死ニデユク人ヲセキトノルシガラミハナイ

茂示ゝで物さび苔わひたるとて結ぶ人のミぬうらふ

はらはらと松葉ちるてよあるる　閑院

さびぬくいのやちゝびうのきハ後ゝあるのうへゝりてあるり

○人ノ死ヌルハテウド流レテユク川ノ水イトホリデ　ニタビ返ツテクルト云ヘハナイ

此度ノ口ヲサヾヤ口カ落レ口推量ヤ云タ　ワタシモ口ヲ二カヲ落シ云タ

サキヘ早ウ死マシタラヨカワタニ　カウシテ生テラリマスノガ悔シウテ　ノリカヘシ〳〵

カナシイハ　此度ノ口ヲサデゴザリマス　先ヘ死マシタナラ　コンナコハウケタマハル

マイモノ　後程ヲ学ぶ　三の白れぞりと云白のれ

つとゝとおもゝて味ふべしさてこの白云のゝ云ぐゝく切て八ヶ条

ほきハゝつゞけて後ビハ条条書きへかれり。ゆふかれる酒よハあゝ

紙、女別ゞ方ゝりふる時よある

はゝゆき

あるとゝ云ふ条方と云ふとゞ云れぬまあり云六人ゝそかるゝゝうとりれ

○条方モ四日ハシヒヌトハ云ヘド　マダ暮テ明日ニナラヌ今日ノウチハ

マアオレハカウシテ内ツテ居レバ　人ノ死シタノガサカナシイワイ

あゝみ祭

内ゝもあるも秋ハ人のとかゝべきあるゝを云ゝ云ゝよ恵ゝきりの後

○内云モアラウニ秋ノ内ゝ云ニ人ノ死ナウ〻カイ　秋ハ物ノカナシイ時

云ナレバ　生テアルノヲ見テサヘ　ナツカシウ思ハレル云マア

たゝ〜が忌中ノ思ひつゝてよめる　九条の関白つま

かみなる月ちぐさのもみぢ葉はたゞ恋人のなみだなりけり

○十月ノ時雨ニヌレタ紅葉ヲ人ニバトシト悲シイ者ノアル者ノ袖ヂヤワイ　今度母様ニハナシテカナシサニ血ノ涙ヲ流シテヌレル袖ト　アノ紅葉ト　色モヌレタヤウスモトツトオンナシヂヤ

ちぐさ思ひてよめる　ゆづこう

ぬぎ捨てしこゝろ糸はうびくの玉のをゝぞ思ひける

○ワシガ今ノ服デ着テ居ルキルモノハ、ツヒテ来ル糸ハ涙ノ玉ヲツナグ緒ニナルワイ涙ノテウド玉ノ様ニコボレルガハツヒタ糸ヘカヽルハ玉ヲ結ヘワナグヤウニ人エテサ思ひ行くとしの秋山でゝ〜まかりけゝ道少てよめる

和歌のおくてのの山田かりそめふるはつ中ゆおもひぬるかな

○一二　今を八月中ノウイ和ヂヤト云フヲタヾウカヽトカリソメニ思フテ居タ〜カナ　今度不幸ニアウテ世中ノウイ〜ヲ　真実ニ思ヒシツタ

ありしよ行りりくゝ人をとゝひふまりてよめる　しづみ枝

雲波の雲ぶかりしハやるれやたゝもぬ涙乃雨とのこゝぬる

○半様ノキテゴザル服ノ其袖ハ雲ヂヤカシテ　涙ガ絶ズヒタモノ雨のヤウニフリ〜スメ様ノ親ノ忌中デ泣コヒ人ガ　おやの思ひ出てしぬちふ行りるを行くのとゝひ

ほうさせりりれば返りるふ徳るよ少人をゝび

あ〜ぜきの山ぶかくハさそ〜法はの衣の袖乃ひるゝなきも

○私モモウハヤ　ハ〜ハはゞ及ビノ色ヨリ　山ニ住ハジメニシテ　泣テバカリ
ヲリ〜スレバ　服ノ袖ノカワキ〜スヒ〜モゴサリ〜セヌ

詠雪はそ〜ぢのあ〜りの雪をつゝてよゝる

たゞもりの新尼

ゝゝの面よ志づ〜むの色さへ冬も実ぐみゝ〜ぎのおもわゆゝるかな

○アノ池ノ水ヘウツ〜タ花ノ影ノハツキリト見エヤウニ　崩ヒナツタ君ノ比新
ガアリ〜ト〜アラガムヤウニ思ハルヽカナ　志づ〜ハあの水の中ハ見ゆる
ゝゝ万葉ホ〜ー〜ゝゝゝどりを考へて新しい物を或ハ流ぢゝし
ひゝ或ハ流ぢゝゝハ皆ひぐ〜ゝ〜百紫ふまわる流ぢゝかけるとゝゝの

あゝハ流りて出る字ゝゝたゞ流むゝと志づ〜といふてゝゝ
涼菓のみかどのはゝ見の月　文屋やもゝひで
菓子記事の面ふ〜新ゝ〜てゝ月の白しゝ山やハあ〜ゝ

○サイチウト照ル日中ノ日カ　涼イ夜ニカクレテ　ニハカニ雷ウナツタヤウニ
先帝様ハ四ダサカリノ浄年デ　俄ニ雷ナツテ　あノ涼イ涼菓山ノ
谷ヘヲサメ奉ツタガ　ホドナウ浄一周忌ニナツテ　今日ハ其去年ノ品品ノ
日デハナイカイ〜ア　アゝゝ其ハ悲シイコトデアツタガ　去年ノケフ
デアツタト思ヘバ又ゝ其ノヤウニ思ハレテ　サテモ〜カナシイコトヂヤ
涼菓のみかどの浄ハ涼菓人ハ出てよゝる物ゝ時れつゝ
四ゝゝ浅涼菓ふりれば〜ゝ花ゝるもまゝら

ぞ〜と初えの少よのゞりてかゝらあるゝてけるとその
又のゝ〜みゐ人ぢたゞくぬぎてけるハかゝりかゝりなるどよ
ゝしびゝ成ゆてゝゝ　俗正遍昭

みゐ人ハ花の衣よ形りぬゝりこけの為りしよかゝるきゝぶちよ

○世乃人ハ皆ハデれハモヤ山服ヲヌイデ　花ヤカナ衣ニテツタヂヤガ　表ハソンナ
花ノ衣ドコロデハナイ　ヲダ今ニ成ヲコボシテ　泣テバツカリ居レバ　セメテハキ成ニヌ
レタ苦ノ衣ノ袖ヨ　カワキナリモセイサ　人ハミナ形ノ衣ニサヘナツタヂヤニ

河原のあわいゝゝち男のゝ侍りての秋ゝ此あのあゝりと
まかり（トホリ）ゝにあ系の色まゞ浄くゝ形〜ぎりけをんてゝ此
あ系ゝみてゝ侍りゝ　近院右の幼いゝゝちぎこ

うちつきふちびゝ今もあゝうりみぢ第ぬしあきゝ宿ハ色形りハゝて
○亭主ガナクナラレタレバ　在ノ紅系サヘ　ホツコリト・タ色ガナイワイ　ソレ
ユエいわ系ヲスルタレバ　俄ニアドウヤラ此色ガサビシウ思ハル、ワカナ
在系ゝたゝつ紅の形のみゝりての又此しの友新ゝの巧
ゝ成きゝてゝゝ　つゝゆきゝ
ほゝとゝぎゝけきゝ形ゝ参ふあゝゝろけバ男ふ系れしけふでありまる
○ケサ、新ゝノナク声ニビツクリシテ目ガサメテ　ゝゝテゝゝハ　アヽモウ
郭公ガナケバ　去年君ニハナレタ時ゝ色デサ　オヂヤルワイ
桜とゝ色ゝくゝゝりるふやゝりやゝ花ゝ色ぬゞまゝ時ゝり
ゝゝうゝゝりるゝ人為ゝあゝりふゝ紅ゝらその花をゝてゝあゝ

きのもちゆき

ふるゝもいつまをさゝぬふるゝ　ゑむしくゝ

○梅ノ花ハキツウ早ウホツテハカナイ　ハヤ　ヤガソレヨリサキ〳〵ウエタ人ガサハカナウ　ウタワイ

アヽ　ヱ　ナ世中ヂヤ　花ト人ト　ドチラガサキ〳〵　アダニナツテ　ゑシウ　アラウト　ゑツタ　ジ

ハヤウ　花ヨリサキウエタ人ガアダニナツテ　ゑシカラウトハサラ〳〵　ゑニモ　ゑハナニダ　ヂヤ

わゝ　みよりふけ　人の　あと　梅花を　そよ　ゑ

たゝゆき

名も　鳥も　むかし　の　ちぶ　ゆ　ゑ　ゑ　ゑ

○ハヤ　梅ノ　花ヲ　見ル　ハ　色ニ　香モ　ニ　カタノ　濃サニカハラズ　同ジヤウニ　咲テ　ゐ　コトナレ

ドモ　今年ハウエタ　亭主ガ　居ラレヌユヱ　ハヤ　花ヲ　ウヘル　ニツケテモ　ウエ

テ　ヒサウシラレタ　亭主ノ　面影ガ　サ　ゑシイ

河ホの　花の　おもかゝ　ま　ち　ゑ　の　ゑ　ゆ　ゑ　ゑ

ふま　ゆ　ゑ　て　ち　ら　に　ち　や　ゆ　ま　ら　ふ　ま　ち　の　さ　ア

を　ち　く　ま　ち　ら　ち　と　ゑ　ん　く　ま　ち

君　ま　さ　で　ち　ら　ち　ち　ち　の　ら　ち　ち　び　ん　ち　ん　く　ま　ち　る　武

○君ノ　ゴザナサレヌデ　ハヤモヤタ子バ　烟ノタエテ　シウタ　ハ　ホガ　ノ浦ハ　カウ

ヒワタレタトコロガ　アノ　ハガナシウサビシウ　ゐエルヿカナ

ふ　ち　ち　ち　の　と　ー　ち　ち　の　ち　ち　の　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

ち　ち　ち　し　ち

秋　の　ち

まだ[illegible]をんざんいく[illegible]あるとうけ
をゝてもやくそこふ[illegible]ばむ[illegible]ばおりひやゝと
てよみ[illegible]
みそふけわるとも
君ぐら[illegible]一むも[illegible]記事の[illegible]
○君ノウエテオカセラレタ タツタ一ムラノ萩ガ シゲウナツテ 虫ノシゲウナク
野ニアツタワイ サテモ〳〵ケレカラヌアレヤウカナ
こゝもあれみこあぢの[illegible]
[illegible]しまひれバかきておくりきるもくふしみて
かけうけ侍
ゆゝものり
[illegible]なゝバこの紫さゝもきえ[illegible]むゝ[illegible]ばこのゝ[illegible]

○我父ハトテモ死ナレ、ナラバ ヨンテオカレタ[illegible]デモ ミナイツシヨニ イツ
ソ消テシマヘバヨイニ ナニナカニ[illegible]ガ[illegible]ツテアウテ 跡ガアレバ 一シホ
ロヒダサレテ イヨ〳〵カナシサガ一スワイ
郭公
なゝ[illegible]人のやどにゆよゝで郭公かゝ[illegible]く[illegible]ふのゝ[illegible]くしつぎゝむ
○郭公ハ死ンダ人ノ居ルホヘカヨフ[illegible]デヤトエ[illegible]デヤガ イヨ〳〵サウナ
ラバ コレヤ郭公ヨ オレガジヤウデウ[illegible]ウ[illegible]ラテ泣テバカリ居ルトエ[illegible]ヲ アチ
ヘシラシテクレカシ 又かけてハ イヒダシテ
なもとゝよゝ[illegible]さを[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]のたつゆ[illegible]ゝ[illegible]くゆ[illegible]ふ[illegible]あと
○[illegible]ノ[illegible]花ハタレニヲヨトテ咲タコヤラ 亭主ハ死ナレテ家モアレテ [illegible]ハモ

ハヤ今デハ　三四里ヲイセノヤウニナツテシマウタ物ヲ　花ガ咲タトテタレガアヤウ

おすゝ三ヒの白と火葬のけむりかよせたりしあふぎ

式部ノみさゝ宗流のおれこそふきこそこそりきるをいくぢく

もゝ行で女みこのみゝかりふる時ふるれみこのをこそる

此のうぐひすのなもふふこそゆひつきこそりけるをとりてえ

きバむしれよふてけうをぬむる紀つけうり家る

かつぐくふあとをこれぬるものあ〜バ山のあをあれこそえよ

○山源切ニ思ヒテワタシガヿヲ忘レトサセヌモノナラバ　山ヘタチヌスあラアハレトハ思ヒテゴラウジテトサリマセ　山ノ庵ガワタシガ煙ニナリマシタ訳ノユカリデゴザリマスルホドニ　おすゝかつぐくふのはるゝ

をゝこの人乃ふまかりけるまふ女ふをふやすひ

とゝてゝをゝくゝりにけるゝよみおきてみまか

ゝふける　よみ人しらず

夢をぐふきうでおるゝなまよりもぬきとふ初む君でかるゝき

○追付京ヘ山カヘリナサワタラ　ワタシハモウ今度死ンデシマウテ居モセヌ床ヘ

オヒトリサビシウ山寝ナルデアラウト　存ジマスレバ　オマヘノ山あタラサヘエキカズニ

ワカレテ死ニマスルワタシガ魂ヨリモ　オマヘガサワシヤオイトシイ

やまひふとづゝひ結りる秋さゝちの白のもしげる

くゝあがえりれバゝみてく人のゝゝにつゝふゝをる

大江ノ里

りみぢ葉と風ふようせてゐるようもうるきのハ命ありうこと

○れ葉ヲ風ノフクナリニシテオイテ見ルヨリモ　マダハカナイ物ハ　ワシ

ガ今テコサルワイ　モウ〳〵カウヤス今モシレマセヌ

みまかりぬひとてよめる　為忠これもさ

ゑをみどりなるものと思ひうしなふ物多もいふおるぬとうりと

○ヒゴロ考ヲハカナイ物ヤトハナゼ見フタヽヤラ　ハカナイノハ考バカリデハナイ

サウ見フタオレガ身モ　考ノヤウニ考ノ常ニオカヌトスバカリテコソアレ　今

消ウモシレ子バ　考トナンニモカハルヽハナイニ　を

やまひしてよるうくなりうふりうる時よめる

なりひらの朝臣

きひふりゆくそしらはうて第一かど眺りうるとハおりをさりしを

○死シデ考道ハ　タレデモ　イワゾハゼヒニユクタヒヤトスヽハ　カ子ぐすテ居テ

ヨウガテンシテ居タケレモ　ソレデモムヤウニモウ今日カ明日ユカウヽトハ只ナンダニ

ハヤキ時ガキタツテ死ナ子バヂラヌヽカヤ。○秋云ハ考傷佛るものさしくもと

人のありのまゝにたゞみゆ〳〵もこゝろこゝろのいろ〳〵あるを考

あるきをを時ゆし。こゝもゞ色まの古のこゝろにて人のらんをうりる

かひのあふあひをうて行るる人をうりむとてまゐりる

道おうふゆくふそうふやまひをしていろくとおりふりまし

モウヂヤクトスボドニナルノニバ

もよりみて京ふりて面うて毎ふえをよといひて人う

イヒフケテヤリケル

はけ行うりるう

ありゝれたげうる風

かうとうあのゆきうひちとゞ見ひこゝ今いうぢるこのかどでありうること

○甲斐ヘ糸ルヽ旅ヲ ツイヽリフメナ往来デヤトサ存ジテ 出テ
糸リヽシタガ 主明ガモハヤ 此世ノイトヽゴヒノ門 出デヨザリヽシタワイナ

主後五の主状

青梅市図書館